

## 吉川宗治・奥田節夫両教授の御退官によせて

吉川宗治先生と奥田節夫先生には、昭和63年3月末日をもって京都大学を退官されました。永年にわたり防災研究所とともに歩まれ、その発展に御尽力いただいた両先生の御功勞に対して、心からの謝意を表したいと存じます。

吉川先生は昭和21年京都帝国大学理学部を御卒業になり、同助手を経て、同32年防災研究所に助教授として迎えられました。昭和37年には教授に就任され、地震動部門の主任として、地震災害の防止・軽減に関する研究と後進の指導・育成に当たってこられました。その間、昭和48年から同50年まで防災研究所長を務められるとともに、京都大学評議員として大学の管理・運営にも参画されました。

先生の御研究は、理学と工学の学際的な立場から新しい分野を開拓すべく主力を注がれ、関連して多くのユニークな業績をあげられました。なかでもS波を利用した地震探査法、既往大地震の震源域における地震動強度の推定法、これらを総合した地震危険度のゾーニングに関する研究は、国の内外において高く評価されています。最近では、紀伊半島の大断層・中央構造線や大阪市内の上町断層など、地震防災を考える上で重要な意味をもつ断層構造の解明に取り組まれ、その成果が目まぐるしく注目されているところであります。

先生は外国の大学でも教育・研究に従事された他、数多くの国際会議の場において、学術の国際交流に努められました。さらに物理探査学会の会長などの要職に就かれる一方、国や地方公共団体の防災会議委員として、防災行政に指導的な役割を果たしてこられました。

こうしてこの度、無事に63才の定年を迎えられた吉川先生に対し、深甚の敬意を表するものであります。

奥田節夫先生は、昭和23年大阪大学理学部を御卒業後、岡山県立邑久高等学校講師、岡山大学理学部助手および同助教授を経て、昭和38年防災研究所助教授に迎えられました。昭和39年には教授に昇任され、地形土壌災害研究部門の主任として同部門の基礎を築かれるとともに、多くの後輩の育成に当たられました。

御研究の対象は広範囲にわたりますが、その一つとして、湖沼物理学の立場から湖沼における堆積過程の問題に取り組まれ、観測と理論の両面で注目すべき多くの成果をあげられました。また地盤材料が崩壊して流動化するプロセスと、それに起因する災害について精力的な研究を進められ、新しい分野を開拓されました。なかでも、土石流の実態とその力学的特性を現地観測によって解明された一連の研究は、特筆に値するものといえましょう。

学内では、昭和60年から同62年まで防災研究所長を、また同期間中は京都大学評議員を務められ、御退官まで京大将来計画委員会副委員長として活躍されました。学外においては、日本地形学連合の初代委員長、日本陸水学会長、文部省測地審議会委員などを歴任しておられます。

先生は定年まであと2年を残して退官されたのでありますが、主な理由の一つとして、後進に早く道をゆずりたいとの強い御意志を承りました。私達は研究所と部門のために、是非とも留っていただきたいと懇願したのですが、残念乍ら御願意はなりませんでした。

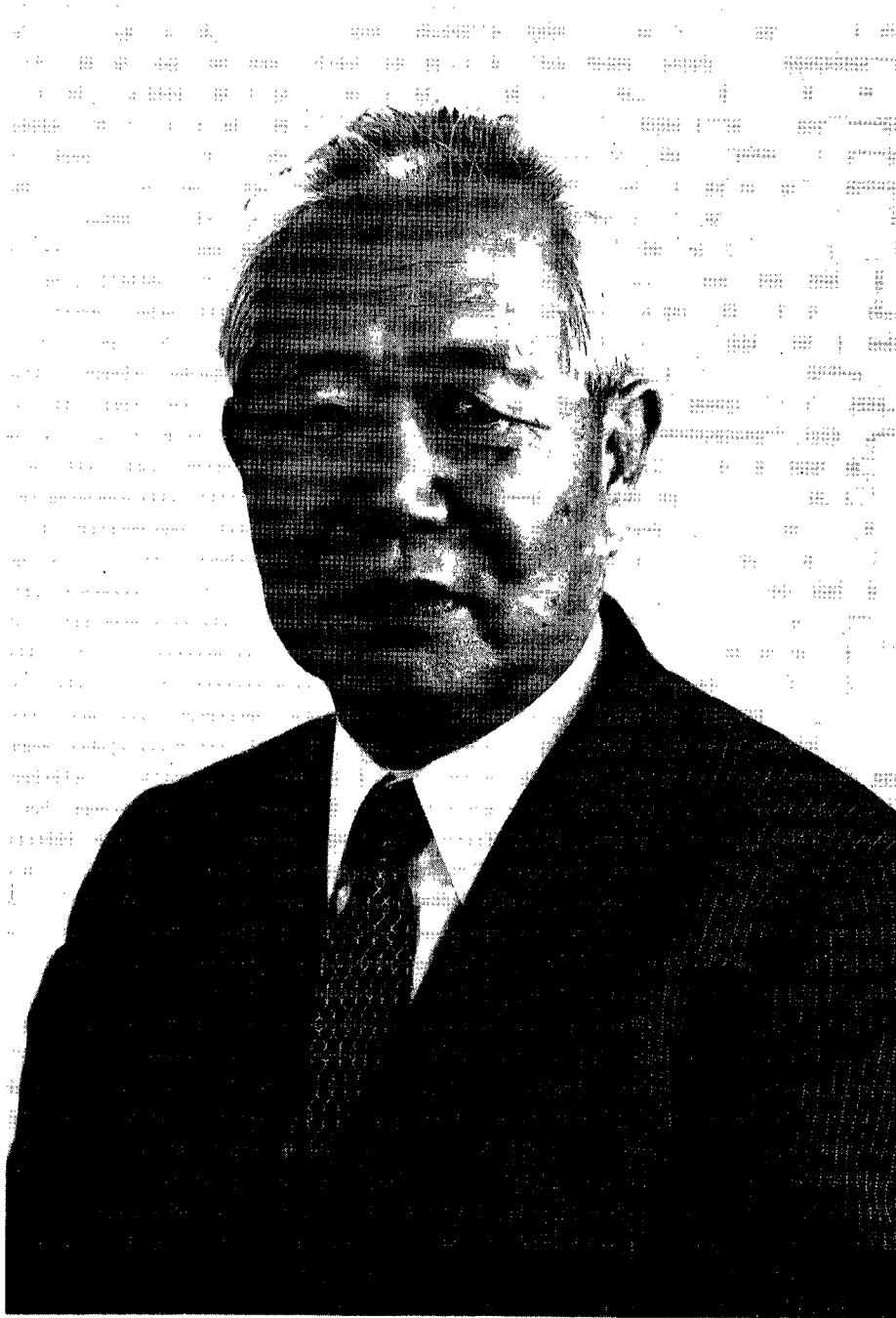
吉川・奥田両先生の輝かしい業績と、門下生に与えられた教訓の数々は末永く語りつがれ、研究所の飛躍に大きな力をそえるものと確信致します。京都大学は両先生の多年の御功績をたたえ、御退官と同時に名誉教授の称号を贈りました。御同慶にたえないところであります。

最後に、先生方の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げる次第です。

昭和63年4月

京都大学防災研究所長

柴田 徹



吉川宗治教授

## 吉川宗治教授略歴

- 大正13年5月21日 奈良県北葛城郡香芝町に生まれる
- 昭和18年9月 第三高等学校理科卒業
- 18年10月 京都帝国大学理学部地球物理学科入学
- 21年9月 京都大学（校名改称）理学部地球物理学科卒業
- 21年9月 京都大学理学部副手
- 24年6月 京都大学理学部助手
- 32年6月 京都大学防災研究所助教授
- 37年2月 京都大学防災研究所教授（地震研究部門）
- 37年3月 理学博士学位取得（京都大学）
- 48年5月 京都大学防災研究所長，京都大学評議員（昭和50年4月まで）
- 63年3月 京都大学停年退官
- 63年4月 京都大学名誉教授

## 吉川宗治教授 研究業績

## 論 文

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1949	福井地震の震害と地盤	防災研究所研究報告第2号	
1950	人工地震波の減衰性について	防災研究所研究報告第3号	
1952	Observation of Tidal Strain of the Earth	Bull. of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ. No. 3	K. Sassa and I. Ozawa
1954	深発地震の発震地域による振動特性について	地震, 第2輯, 第7巻, 第1号	
1954	爆破点近傍の破壊機構について(Ⅰ)	地震, 第2輯, 第7巻, 第3号	
1955	爆破点近傍の破壊機構について	地震, 第2輯, 第8巻, 第2号	
1958	The Propagation of Waves Near Explosion and Fracture of Rock (Ⅰ)	Bull. of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ. No. 21	
1958	岩石内における爆破点近傍の波動の伝播及びそれに伴う破壊について(Ⅰ)	京都大学防災研究所年報第1号	
1959	阿蘇火山の短周期火山微動について	火山, 第2集, 第3巻, 第2号	狐崎長良
1959	阿蘇火山中岳火口周辺における地震探査	火山, 第2集, 第4巻, 第1号	狐崎長良・加茂幸介
1961	The Ground Motion near Explosion	Bull. of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ. No. 49	
1963	大発破に関する研究(Ⅰ) —発破計画および爆薬について—	京都大学防災研究所年報, 第6号	若園吉一・ 佐藤忠五郎・ 西宮正太郎
1963	大発破に関する研究(Ⅱ) ——爆破近傍の振動測定——	京都大学防災研究所年報, 第6号	若園吉一 佐藤忠五郎 西宮正太郎
1963	Some Problems on the Determination of the Seismic Characteristics of the Earthground	Gophy. Papers. Dedicated to Prof. K. Sassa	
1964	土木地質に対する地震探査の適用例	京都大学防災研究所年報, 第7号	狐崎長良
1964	Application of Analog digital Converter for Seismic Data	Spec. Contr. Geophy. Inst., Kyoto Univ. No. 4	T. Wada and T. Furuzawa
1965	新潟地震について	京都大学防災研究所年報, 第8号	
1965	地震の性質と地盤調査法	土質工学会, 地震と地盤	
1965	新潟地震被災地における弾性波探査	京都大学防災研究所年報, 第8号	島 通保・後藤典俊
1965	新潟地震被害地における人為加振による地盤調査	京都大学防災研究所年報, 第8号	島 通保・後藤典俊
1965	新潟地震余震観測	京都大学防災研究所年報, 第8号	古沢 保・小野博尉
1966	地盤調査における2, 3の問題	京都大学防災研究所年報, 第9号	島 通保・後藤典俊
1966	自然地震と人為加振による地盤の振動特性について	京都大学防災研究所年報, 第9号	島 通保・ 入倉孝次郎
1966	地震と地盤・構造物基礎	化学工学第30巻第7号	
1967	地盤調査における2, 3の問題(続)	京都大学防災研究所年報, 第10号A	島 通保・後藤典俊 入倉孝次郎
1967	Vibrational Characteristics of the Ground Investigated by Several Methods	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 16, Part. 2	M. Shima and K. Irikura
1967	松代周辺地域における地盤の震動特性について(第1報)	京都大学防災研究所年報, 第10号A	島 通保・後藤典俊 入倉孝次郎

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1968	地中地震計による地下構造決定法について	京都大学防災研究所年報, 第11号A	島 通保・後藤典俊 赤松純平
1968	人為加振による地盤の震動特性について	京都大学防災研究所年報, 第11号A	島 通保・後藤典俊 入倉孝次郎・ 赤松純平
1968	松代周辺地域における地震の震動特性について(第2報)	京都大学防災研究所年報, 第11号A	島 通保・ 入倉孝次郎
1969	えびの, 吉松町における地盤の震動特性の調査(I)	京都大学防災研究所年報, 第12号A	島 通保・後藤典俊 入倉孝次郎・ 赤松純平
1970	立地と耐震	京都大学防災研究所年報, 第13号A	
1971	An Analysis of Strong Motion Accelerograms near the Epicenter	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ.	K. Irikura and K. Matsuo
1976	地震探査による杭の打止め深度の推定	物理探査, 第29巻	望月 宏
1977	A Probabilistic Approach to Estimate Design Earthquake for a Site in Terms of Magnitude, Epicentral Distance and Return Period	Proc. of 6 WCEE, Vol. I	Y. Iwasaki and E. Ishii
1978	Microzoning of Osaka Region	Proc. of 2nd Int. Conf. on Microzo, Vol. 1	Y. Iwasaki and M. Tai
1978	北丹後地震における震源近傍の地震動に関する2, 3の考察	第5回日本地震工学シンポジウム講演論文集	岩崎好規・田居 優 松崎仁一
1979	Ground Motion near Causative Fault of Kita-Tango Earthquake of 1972	Proc. of 2nd South Pacific Reg. Conf. on Earth. Eng. Vol. I.	Y. Iwasaki, M. Tai and J. Matsuzaki
1980	The Attenuation Characteristics of near Field Ground Motion due to Strike Slip Fault Motion	Proc. 7 WCEE, Vol. 2	Y. Iwasaki, M. Tai and A. Kowada
1982	木造家屋の被害分布から推定される断層近傍地震動特性について	Proc. 6 JEE.	岩崎好規・田居 優 福田光治・北野剛人
1983	物理探査と災害科学	物理探査, 第6巻, 4号	
1984	Near-Field Strong Ground Motion Characteristics Based Upon the Distribution of the Wooden House Damages in Japan	Proc. 8 WCEE., Vol. II	Y. Iwasaki M. Tai, M. Fukuda and T. Kitano
1985	地震動に関する研究の動向	電気評論, 第70巻, 9号	